

農林水産省では、美しいふるさと・国づくりを推進するために様々な取組を行っています。ここでは、農山漁村の共生・対流推進会議（オーライ！ニッポン会議）等との共催により実施しております事業を紹介します。

○ オーライ！ニッポン大賞 ー都市と農山漁村の共生・対流表彰事業ー

都市側へのインセンティブの付与、都市と農山漁村の橋渡し等の都市と農山漁村の共生・対流に資する優れた取組について表彰を行うものです。

【オーライ！ニッポン大賞 グランプリ】受賞団体 長野県飯田市

＜講評＞



周辺の町村、民間団体とともに、体験型観光専門の第3セクターである（株）南信州観光公社を立ち上げ、400戸以上の農家の協力を得て、年間220校に及ぶ小・中・高校の修学旅行を受け入れ、体験学習の普及推進に大きく寄与している。農業体験は、生徒が数名ずつ分かれ宿泊した農家の日常の農作業に加わって行うという本物志向。体験メニューも年間を通じて100以上のプログラムが用意されており、大変充実している。

また、全国に先駆けて取り組んでいる「ワーキングホリデー」は、年間200名を超える人々が訪れる中で、地域で活躍するインストラクターが約300名も育ち、体験受け入れ農家数も100戸になるなど、地元住民や高齢者にとっては生きがいに繋がる活動となっている。

都市と農山漁村のお互いの暮らしが豊かになる取り組みであり、都市農村交流が総合的に地域活性化につながっている点が高く評価された。

【オーライ！ニッポン大賞】受賞者又は団体

“武蔵野市”（東京都武蔵野市）

- ・武蔵野市の小学5年生と中学1年生全員を対象として、1週間程度、農山漁村に滞在して農業等の体験学習を行う長期滞在型のセカンドスクールを全国に先駆けて実施している。セカンドスクールを実施するシステムも確立し、生徒を送り出す側として極めて優れた取り組みとなっており、大きな広がりをもって展開している。

“石河 智舒”（栃木県茂木町）

- ・石河氏は、地区内の働き手が外に出ていく状況を深刻に受け止め、ゆずに着目した地域興しに取り組み、地域住民の合意形成による地域ぐるみの活動として「八講ゆず生産組合」を発足させた。現在では、「ゆずの里かおり村」を開設し、都市住民を「かおり村の村民」とするなど継続的に都市住民との交流が図れるシステムを作り出した。

“九州ツーリズム大学”（熊本県小国町）

- ・「九州ツーリズム大学」は、農山村でのツーリズム実践者やコーディネーターの人材の育成などを目的に多様な講師陣により、基礎から実践まで広くプログラムを実施している。このことは全国的に見て模範的な活動として知られ、この取り組みはパイオニア的存在である。また、フィールドワークの講師として地域住民の参加するなどこの取り組みに地域住民が一体となって取り組んでいる。

“たざわこ芸術村・わらび座”（秋田県田沢湖町）

- ・1977年から農業体験学習旅行を受入れて以来、継続して実施している。専門のコーディネーターを配置するなど、近隣の農家と綿密な連携により、中学・高校の生徒を広域的に受け入れている。この取り組みを通じて、農家の方々との温かいふれあいを経験するなど長年都市と農村の橋渡しに貢献している。

“農事組合法人伊賀の里モクモク手作りファーム”（三重県阿山町）

- ・農業生産から交流まで一貫した取り組みであり、農業を感じてもらう場、生産者と消費者、地域住民の触れ合う場としてモクモク手づくりファームを創設。「手づくり体験教室」を通じて都市住民との直接交流が進む中で、高品質な商品開発と近隣市へのテナントレストランの展開など安定した事業基盤を築きだしている。

【ライフスタイル賞】受賞者

ライフスタイル賞は、Iターン等により農山漁村において個性的で魅力的な新しいライフスタイルを実践している方について、広くその生き方を紹介し、今後農山漁村に住んでみたい、行ってみたいと思う方々への参考にしてもらうことを目的としています。

“石黒 宏”（長崎県福江市）

- ・東京生まれの山形育ち。東京でのサラリーマン、脱サラ・外国（ブラジル）生活などを体験し、1975年に農業新規参入者として福江市に約2haの土地を入手し定住。20年前に日曜朝市を仕掛けるなど、地域に溶け込み、地産地消活動の世話役を担うといったライフスタイルは、田舎暮らしを目指している人々の参考になり、また、広い視野での生き方は、青少年に対し生きる道が多様にあることを示すモデルになる。

“門田 進”（岡山県大原町）

- ・自分のライフスタイルには欠かせない、ログハウス、薪ストーブ暮らし、ダッチ・オープンのある暮らしを実現するために、また、仕事の診療放射線技師を生かした僻地医療、福祉にも貢献していきたいと8年前に現住所へ移住した。身に付けた技術を生かした定職を持ち、趣味と結びつけたカントリーライフを満喫、HPでもハンドルネーム田舎時遊人という名でその魅力的な自分のカントリーライフの情報を発信している。

“曾根原 久司”（山梨県白州町）

- ・東京で銀行や企業等のコンサルタントから山梨へ移住。遊休農地を人力で開墾し、最終的には2haの農地で自給を基本とした生活を実践。趣味の音楽を生かした地域での文化活動は地域活性化に大きく貢献している。また、地域に多かった定住者と地元住民の接点を探り、自ら調整役として積極的に活動している。自給の生活をベースに自分の趣味や特技を伸ばすライフスタイルを実現しながらも、地域社会に溶け込む努力をしている。

“長崎 喜一”（富山県朝日町）

- ・県職員として在籍していた平成6年から杉の間伐材で手づくりの丸太小屋を建設し、地元の仲間たちと平成8年に地域活性化グループ「やまびこの郷」を結成。その後、紙すき小屋、白炭窯等、里山の生活技術を伝承する匠の小屋を建設。炭焼きや紙すきなどのもの作りが体験できる活動を行っており、現在では県内外から年間約2000名が訪れるようになった。活動をここまで発展させたのは、長崎氏の信念と熱意に多くの人が集まり、地域住民とともに取り組んだ成果であり、また、定年退職後の生き方の一つとして参考になる。

“中島 健介”（福岡県立花町）

- ・農業一筋で行っていたが、平成8年に農家民宿「大道谷の里」を登録し立ち上げる。口コミで都会からのお客さんも多く、現在は地域の仲間たちと力を合わせて福岡市、北九州市などから「子供ファームステイ」を受入れ、趣味である音楽を生かし素人バンドを結成し、ボランティアで老人ホームに出掛けたり、地域でコンサート活動も行っている。自ら田舎暮らしを楽しみ、その楽しいところを積極的に情報発信している。

“畠山 芳子”（富山県利賀村）

- ・東京都武蔵野市の市議会議員をしていた畠山さんは、武蔵野市との姉妹都市提携の30年間にわたる交流をきっかけに利賀村へ魅力を感じ、60歳を機に移住した。現在は、交流ボランティアとして、毎年武蔵野市から受入れるセカンドスクールの子どもの世話や、村を訪れた人達の案内などを行うっている。移住先でも、これまでの経験を生かした活動により社会貢献に繋がり、両者のコミュニケーションを高めている。これからの女性の新しい生き方のモデルになる。

【審査委員長賞】受賞者又は団体

- ・飯山市グリーンツーリズム推進協議会（長野県飯山市）
- ・色川地域振興推進委員会（和歌山県那智勝浦町）
- ・上田西百姓王国（岡山県加茂川町）
- ・NPO法人エコ・ビジョン沖縄（沖縄県那覇市）
- ・NPO法人ホールアース研究所「ホールアース自然学校」（静岡県芝川町）
- ・園田 秀則（山口県美祢市）
- ・大分県安心院町（大分県安心院町）
- ・特定非営利活動法人大山千枚田保存会（千葉県鴨川市）
- ・特定非営利活動法人黒潮実感センター（高知県大月町）
- ・白山連峰合衆国事務局（石川県辰口町）
- ・兵庫県子ども自然村「運営主体：社団法人兵庫県こども会連合会」（兵庫県神戸市）
- ・水土里ネット立梅用水 立梅用水土地改良区（三重県勢和村）
- ・有限会社とかち自然体験学校（北海道池田町）

○ 平成15年度 農村アメニティ・コンクール

農村アメニティ・コンクールは、農山漁村特有の美しく緑豊かな自然環境や景観、歴史、風土等を基盤とし、ゆとりと潤いとやすらぎに満ちた居住快適性（農村アメニティ）が地域住民の自主的努力を通じて保全・形成されている優良事例について表彰を行うとともに、あわせてこれら優良事例の普及を図ることにより、農山漁村の振興並びに都市と農山漁村の共生・対流の促進に資する目的で実施しています。

【農林水産大臣賞 最優秀賞】受賞地区

岩手県山形村

自然と山村文化の恵み～短角牛が拓く山村文化交流とヤマセが育てるほうれんそう～



<概要>

山形村は、岩手県の北部に位置した四方を山に囲まれた村であり、気候は、全般に冷涼であり、特に春先から夏は、ヤマセが発生し、農作物の生育に大きな影響を与えている。

山形村では、村の自然と伝統を活かし、明るく住みよい村の創造を掲げ、特産の「短角牛」や古くから受け継がれた山村文化などの恵みを利用し、“都市住民との交流”と“安全な食料の生産”を進めている。

<講評>

中山間地に位置し、交通条件は悪く、夏はヤマセ、冬は積雪という厳しい条件の中で、地域資源を有効に活用して、短角牛、ほうれん草、木炭などの地場産業の振興に取組実績を上げている。また、伝統的な食文化の継承、山村文化を発信するバッテリー村などによる都市農村交流が行われている。

【農林水産大臣賞】受賞地区

幽玄なる石仏群と美しき棚田の山里
愛知県鳳来町四谷地区



地域の耕作者有志によって結成された保存会が保存活動を行い、その活動を通じて都市農村交流にまで発展させ、女性グループによる千枚田売店にもつながっている。また、石仏群の保存活動を含めて、地域住民の活動が活発である。

豊かな経験や体験を通し、子どもたちに夢と感動を
～運動の原点はふるさとの良さの再発見と人づくり～
京都府京北町21くろやま塾



21くろやま塾は、地区内の子ども達にふるさとの自然、歴史、文化を知ってもらうために多様な活動を行っている。この活動により、親と子のコミュニケーションが活発になり、地域住民の連帯感や主体性を醸成し、住み良い地域づくりに貢献している。

【農村振興局長賞】及び【(財)農村開発企画委員会理事長賞】受賞地区

○農村振興局長賞

“星ふる森と水の精たわむる名田の荘”（福井県名田庄村）

- ・地域の環境について地域住民自らが構想づくりに参画し、地域住民によるむらづくりが行われている

“人と自然が共生する地球にやさしいむらづくり”（大分県久住町）

- ・環境保護条例や公害対策条例の制定など環境を保全する活動を活発に行っている

“白砂の道に続く竹ぼうきの筋”（沖縄県渡名喜村渡名喜集落）

- ・伝統的集落景観が保全されており、沖縄独特の伝統を守り、地域住民による活動が活発に行われている

○(財)農村開発企画委員会理事長賞

“「水と雑木材のバイオープづくり”

～上原地区に子供たちが遊べるような水辺の整備～（長野県大町市わっぱらんの会）

- ・農地や里山を活かし、住民・行政・企業と都市住民が連携して、地域のアメニティの保全活動に取り組んでいる

“『里山の復活』今山農村舞台保存会”（徳島県勝浦町今山農村舞台保存会）

- ・人形浄瑠璃・農村舞台などの地域伝統を見出し、地域住民自ら伝承及び保存活動を行っている

○ 第3回むらの伝統文化顕彰 受賞団体

農山漁村の歴史や伝統、暮らしの中で受け継がれた風俗習慣、芸能、景観等は、地域の価値ある伝統文化として、地域のアイデンティティを生み、地域に住む人々が誇りと愛着を持つ地域づくりを支える柱となるものである。

しかしながら、近年の社会構造や価値観の変化、加えて農山漁村地域の急速な高齢化や過疎化といった状況の中で、その貴重な伝統的所産の継承が危ぶまれている。

このため、農林水産省、都市と農山漁村の共生・対流推進会議（オーライ！ニッポン会議）及び（財）都市農山漁村交流活性化機構では、農山漁村の伝統文化の価値を理解し、その維持・継承・活用において積極的に取り組んでいる方々、また農山漁村の隠れた貴重な技術を継承し今に伝えている方々など、伝統的所産を地域の活性化に活かして活動している方々を顕彰し、農山漁村の活性化に寄与することを目的として実施しています。

【農林水産大臣賞】受賞団体

茨城県大宮町



「西塩子（にししおご）の回り舞台」組立と地芝居の復興

西塩子の回り舞台保存会

<概要>

大宮町大字西塩子に保存されている、文政年間の道具をそなえた回り舞台付農村歌舞伎舞台。昭和20年秋に行われた地芝居の上演を最後に、地元西塩子での本格的な組み立ては行われていなかったが、平成3年度に町の調査をきっかけとして復元の機運が高まり、平成9年、地域が一丸となって半世紀ぶりに組み立てが行われ舞台が復元された。

平成10年に地芝居の一座を結成し、その後、原則3年に一度舞台を組み立て定期公演を実施。

平成15年の舞台組み立てには、組み立て技術伝承教室を併せて実施し、延べ100人を超える方々が組み立てや公演当日の舞台背景の転換に参加、技術伝承の手応えが感じられた。

<講評>

舞台と芝居の二つの復活によって、地区内の人と人とのつながりも復活し、新しい地域づくりの力となっています。地芝居の保存・継承だけでなく、その公演ごとに舞台を作る技術の復活、継承もなされているという、二重の努力を地域の人々が熱意をもって行っている。

【農村振興局賞】受賞地区

農家蔵

青森県尾上町

NPO法人尾上町蔵保存利活用促進会

むらのみんなで支える御田祭（おんださい）

宮城県西郷村



農家蔵を、地域の貴重な資源として保全・活用し、この資源を基に農作業体験ファームステイや、一般市民の農家蔵・庭園めぐりへと展開を見せています。こうした農家蔵を出発点とした、積極的な活動が農村景観の保全やグリーンツーリズムの推進に貢献しています。



過疎化、高齢化が進む中で、泥んこで担いだ神輿の体験はいつまでも「ふるさとの祭り」として心に残り、郷土愛を育むことに結びつけています。平安時代から続く暮らしと生業に結びついた伝統文化を、むらをあげて伝承している

【（財）都市農山漁村交流活性化機構理事長賞】受賞地区

“亀甲織”（岩手県雫石町 しずくいし麻の会）

・伝統技術（亀甲織）の復元から継承まで地域全体を巻き込んだ交流を行っている

“食の博物館”（宮城県加美町 食の博物館実行委員会）

・食に視点をあてた地域資源の再発見による活動を行っている

“具志堅のシニーグ”（沖縄県本部町） シニーグ：沖縄本島北部で行われている神事

・地区住民が一体となって伝統的な祭りの形式を守り、伝承し、それが幅広い交流の契機となっている